

# 岩手教区報

第331号  
 立教183年7月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



「難渋だすけ」と向き合って  
 主事 高橋 邦和  
 少年会団長

立教178年11月、「第6回ようぼく保護司研修会東北ブロック大会」が花巻で行われました。保護司について知識も理解も欠けていましたが、ご指示のままに受講してみると、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生を、世の中の陰から支えている活動に心を動かされ、当時、天理教保護司連盟副委員長の故土内徳一郎先生から保護司になるよう、熱心に勧められました。

研修会後、家族に相談しますと、祖父が教誨師を拝命していたことから、教会では刑務所を出所直後の人たちを預かり、その人たちが赤ん坊だった私をあやしてくれていた話を出され、背中を押してくれました。早速手続きを始め、翌年3月に自立準備ホーム(出所した人に引受人がおらず、また帰る場所もない人の生活基盤を確保し、円滑な社会復帰ができるよう、一時的な宿泊場所を提供して出所者の保護をする制度)を立ち上げ、同年9月に保護司を拝命いたしました。

保護観察処分の方と面接を重ねる中で感じることは、事件によって被害者と加害者という立場に分けられませんが、害を加えた人のそれまでの生活環境や人間関係を抑り下げて見てみると、育てられ方にも原因があるように思います。子供が初めて出会う大人は「親」で

す。初めて接する大人である親から受ける影響の大きさは計り知れません。つまり、幼少期からの育てられ方が、その後の人生を決めていくと言っても過言ではないと思います。

少年会では、本年の活動方針に、「日々に陽気ぐらしを実践し、その喜びを子供たちに伝えよう」を掲げています。日々の陽気ぐらしとは、親神様を心に、他者の幸せを願い、明るさと優しさをもって、たすけあう心へと成長していくことだと思います。まずは、大人が日々実践し、その姿を子供たちに見てもらい、積極的に伝えていくことが重要です。縦の伝道の主軸は「親から子」ですから、この活動方針の主語に「親」をつけ、親は日々に陽気ぐらしを実践し、その喜びを子供たちに伝える責任があり、その積み重ねによって、陽気ぐらしが世の中へと広まっていくのでしよう。

現在、コロナ禍による自粛要請が解除されてきた一方で、これまで見えていなかった地域や家庭の様々な問題が出てきました。今こそ、私たちの出番と心得て、果敢に「難渋だすけ」に向き合い、次の塚に向かって歩んでいきましょう。



## 「選ぶ自由の中で」

ご神言に「この木切ろうかあの石と思えど神の胸次第」(みかぐらうた)と論

とされている。  
 ところで、我々の日常は「選ぶ」ことの連続である。「今日は電車にしようか、車を運転して行こうか」とか「抗がん剤治療か放射線治療にするか」といった小さな選択から重大な選択までであるが、究極は神様から導かれての選択とすべきことが多い。

7年程前になろうか。某教会のM先生と話し合っていたとき、私は何の気なしに「この頃、飛蚊症なのか、左目に糸屑のようなものが飛び回って鬱陶しいことだ」と一人つぶやいていた。するとM先生は突然真剣な顔つきとなり、「飛蚊症も色々あり油断できません。僕は一昨年、飛蚊症なんか加齢により誰でもなるものと放置している間に悪化したものか、診

察を受けた時は、立派な網膜剥離で、直ちに岩手医大で手術となった」という事だった。その話をするM先生の表情に神意を感じた私は、翌日早速眼科を受診していた。検査の結果、医師は開口一番、「あなたは幸運な方だね。今日来られて良かった。網膜が剥離する寸前だった。小さい鍵裂きの傷が三箇所確認されたので、今後、剥離しないように、レーザー光線を照射し固める網膜光線凝固術の手術を行いますよ。」と、直ちに準備にかかり無事終了した。

数々、神様のお働きをお見せ頂く中に、この時はM先生との出会いを通し、正に大難は小難に、小難は無難にお連れ通り下された親心のぬくもりを悟り感動させて頂いた。M先生の言葉を聞き流しにせず、神意の現れと受け止め、翌日、早速治療を受けた事もない眼科の医院に初めて足を運ぼうと決めた私の決断も、神様の摂理と申せよう。

先人の口伝に「時というものがあるで、時ということよく心に治めておかにやならん、時をはずして何をしても何にもならん」と。また、ご守護は時をはずして頂けない。手遅れにならぬよう、時旬の中に神様の不思議、お働きを頂くよう、時旬のご用に間に合うよう勤め励みたいものである。

WEBお道のコンテンツ

布教部 WEBひと「おぢばの香言話」に耳を傾け、教えにふれる時間を。 養徳社 「おぢばの香り」心の栄養をあなたに。毎週土曜日更新。

心♡陽気ぐらし

陽気チャンネル

「ようぼく成人講座」開催予定(7月分)  
 花巻11日(土)花巻分 13時半講師 高橋邦之  
 計報  
 澤口 テル子 (92歳)  
 三陸支部・三陸分教会3代会長夫人  
 令和2年6月27日出直された。

- 行事予定 [7月分]
- 1日 少年会例会(12時)
  - 2日 主事会(9時) 役員会議(10時)
  - 7日 学生担当委員会例会(19時)
  - 13日 婦人会例会(10時半)
  - 17日 岩手教区小史編集委員会(10時)
  - 18日 青年会例会(18時)
  - 19日 女子青年会例会(10時)

役員信者の誠心誠意のつとめ。他にも、教えきれない方々のお蔭でここまでまいり



赤濱分教会【三陸支部・嶽東大】

会長 黒沢江利子

「御目標様再奉祀」のお運びによって、今月4日、お目標様にご鎮座頂き、翌5日に奉告祭をつとめさせて頂くことになりました。震災以降ここまで道中をふり返ると万感迫る思いです。

移転建築に至るまで、移転地の選定、行政との折衝、また復興の道半ばにしての前会長の出直し。そしてふしんに際しては、大教会、上級教会のご指導、



東日本大震災津波により、岩手教区では3教会が全壊の被害を受けた。今月、赤濱分教会が神殿落成奉告祭を迎えるが、これで全教会が復興の歩みに区切りをつけた形となる。

そこで、3教会の会長様にこれまでの歩みと、そこにかけてきた思いをふりかえって頂いた。

氣仙分教会【県南支部・湖東大】

会長 鈴木勝井



上級・湖東大教会では、震災後約半年間、当時避難所となった特養施設「高寿園」にて、外のテントで寝泊まりしてのひのきしんがなされました。この支援活動は、多く関係者に大変

喜ばれましたが、何よりも教会家族の心が一番救われました。そして、当教会の移転建築も、大教会の全面的なご指導を頂いて成し得ました。

今、陽の光注ぐ神殿で、心を揃えて朝に夕におつとめをつとめられることが、教会家族にとってこの上ない喜びです。亡き妻の遺影も、微笑んで見守ってくれています。

(落成奉告祭 立教181年6月3日)



東山田分教会【三陸支部・城山大】

会長 五日市正道

当教会は、震災で全焼という大節をお見せ頂きましたが、幸いお目標様は無事にご捧持させて頂きました。

教会の土地が、かさ上げを伴う土地区画整理事業の対象地となり、ふしん開始まで8年が経過してしまふことになりま

ました。この上は、教会設立の元一日に思いを致し、教会内が一手一つに心を結んで、御恩報しの道を進みたいと思ひます。(落成奉告祭 立教183年7月5日)



災救隊

「教区訓練」報告

教区災救隊は、去る5月30、31日の両日、盛岡分教会を会場に、本年の教区訓練を実施、18人が参加した。

だが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下、災救隊本部からの指導により、例



当初、県南支部を会場に教区訓練の準備を進めてい

した。しかし、この事業によって形状が変わった境内地が、不思議にもかんろだいにほぼ正対する神殿を建築できる結果となったのです。

これまで大変多くの方々のお力添えで神殿ふしんができました。これからも、神一条、たすけ一条の精神で皆様のご指導を頂きつつ歩んでまいりたいと思ひます。

(落成奉告祭 立教183年2月16日)



年規模での訓練は行わないことにした。その中、屋根の補修等の作業に使用する足場を教区備品として納入することになり、保管場所に盛岡分教会の境内地の一部を借用し、その整地と土台を据える作業を急遽教区訓練として、規模を縮小して実施することが決まった。

【作業報告】土台石100個移動、整地50㎡、土台石16個据付、石材運搬ダンプカー2台、ヒバの木6本の芯止め。

